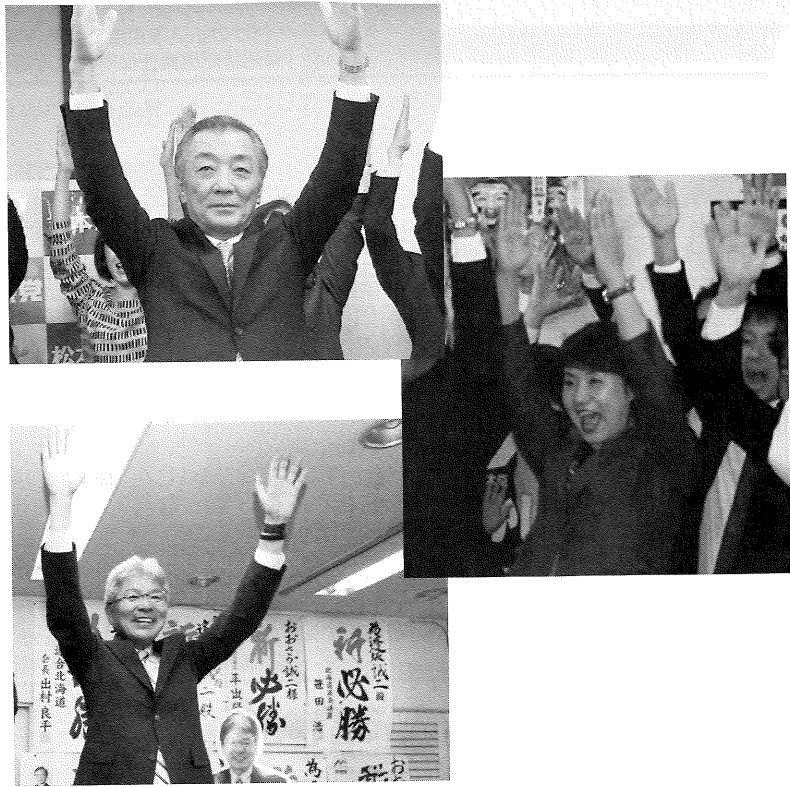


# 薬連ハイライト

## 3名の薬剤師前衆議院議員 全員当選！

10月10日に公示された第48回衆議院議員選挙は22日投開票され自民党の大勝となった。薬剤師議員で立候補した松本純（自民：神奈川1区）、とかしきなおみ（自民：大阪7区）、逢坂誠二（無所属：北海道8区）の3氏がそれぞれ厳しい選挙戦を戦い抜き当選を果たした。薬剤師連盟にとって大変嬉しい結果となった。新人で栃木5区から出馬した大豆生田実（希望の党）は善戦したが落選した。

また、都道府県薬剤師連盟で推薦をし、全力で支援をした候補者229名中212人が当選を果たし勝率は92.57%となった。



## もとゆき便り

### 来年度政府予算編成に向けて

自由民主党組織運動本部本部長代理  
参議院議員・薬剤師  
藤井 もとゆき

衆議院総選挙は10月22日に投開票が行われ、自民・公明の連立与党が3分の2を超える議席を確保し、引き続き安定した政権運営を担うこととなりました。ご支援頂いた皆様方には心より御礼申し上げます。

さて、年末の来年度政府予算編成に向けて、政府内での議論が活発になっています。来年4月に報酬改定を控える医療・介護の分野では、10月25日に財政制度審議会の分科会が開かれ、財務省が報酬改定に関する改革案を提示しました。

改革案では診療報酬について、毎年増加する医療費を高齢化の要因による伸びの範囲に収めるためには、2%半ば以上のマイナス改定が必要となるとし、更に、診療報酬本体の水準は賃金・物価の水準と比べ高く、国民負担の抑制や制度の持続可能性の観点から是正の必要があるとして、診療報酬本体のマイナス改定も求めています。調剤報酬に関しては、「かかりつけ薬剤師・薬局」のビジョンに向けて、地域においてかかりつけ機能を担っている薬局は適正に評価しつつ、機能していない薬局の報酬水準を適正化し、大手調剤グループに所属する薬局や、処方せ

ん集中率の高い薬局には、経営環境・収益性の観点から、より低コストのサービスを求めていくべきとしています。

薬価については、昨年末に示された「薬価制度の抜本改革の基本方針」に則り、新薬の効能効果の追加等により販売額が増加した場合の薬価引下げの仕組みの導入、現行の新薬創出等加算制度は廃止又は適用対象の絞り込みや費用対効果評価の義務付けなどを求めています。

また、10月26日の経済財政諮問会議に加藤厚生労働大臣が提示した資料には、「薬価制度の抜本改革に向けた基本方針」に基づき改革を具体化することや調剤報酬の抜本的な見直しを行うことなどが示されています。

医療費の増大に対して財政面からは厳しい考え方が示されていますが、医療の質の低下を招いたり、薬剤師・薬局の適正な評価が損なわれたりすることのないよう、全力で取り組んで参りたいと思います。

藤井議員に関するご意見・ご要望等がございましたら、全国藤井もとゆき薬剤師後援会（下記アドレス）までご連絡くださいますようお願いいたします。

zenkoku@m Fujii.jp